



わたしの闘病記

会員 浅尾 綾乃 (64期)

1 悪性腫瘍の発見

人生には様々なライフイベントがありますが、予期できないことも多いです。昨年の私は30代前半で全く予期していなかったライフイベントを経験しました。

2018年4月末に婦人科の検診で右の卵巣に大きな腫瘍が発見されました。痛みを感じていなかったのですが、大変驚きました。MRI検査を受け、その後より詳しい検査のため、大学病院を紹介されました。

5月中旬に大学病院を受診し、初診にもかかわらず手術日を決められました。突然のことで仕事の予定と合わせたいと申し出ると、医師に「命と仕事どちらが大事ですか」と問われ、事の重大性に気付きました。次の受診日に、夫を伴い手術の説明を受けたところ、血液検査やMRIの画像から悪性腫瘍の可能性が極めて高く、「卵黄嚢腫瘍」という若年性のがんと告知を受けました。このがんは年間の発症例（平均）が125例と極めて珍しいもので、右卵巣の摘出手術と抗がん剤治療をすれば治る可能性が高いと言われ、驚きや悲しみよりも本格的に治療に専念しようという気持ちになりました。両親や職場の上司にその旨を伝え、約2週間で手術と治療へ向けた準備をしました。私は準備に追われ、特別な感情は湧いてきませんでしたが、周りの人々は大変心配してくれていたようです。

2 手術と抗がん剤治療

6月上旬に手術を受けました。手術室はテレビで見たような光景で緊張しましたが、あっという間に全身麻酔が効き、意識が戻ったのは処置室でした。手術では無事に腫瘍を摘出でき、がんの転移もありませんでした。術後の経過も良好で、手術の次の日から歩き始め、5日後に退院しました。ここまでは順調でしたが、がんの治療は手術後が肝心ようです。

手術の約2週間後、抗がん剤治療を開始しました。2種類の薬を入院中に5日連続して投与し、その他1種類の薬を1週間に1回、3週連続で投与するという治療を3クール行いました。投与を始めると、食欲不振になり、のども痛くなり、倦怠感、不眠になりました。また、髪の毛も抜け、こんなにづらいことが世の中にあるのかと思いました。治療中は免疫力が低下するため、退院後は自宅で静養していました。人生でこんなに休むことはなかったのですが、倦怠感が付きまとい、テレビを見るか寝ているかでした。抗がん剤治療は6月末から9月中旬までかかりました。

3 仕事への復帰

免疫力、体力の回復を待って、10月下旬に仕事に復帰しました。私は証券会社でインハウスとして働いていますが、仕事内容は病気の前と大きく変わらず、体調に合わせたペースで仕事ができるので有難いです。また、月1回病院に行き、経過観察を行っています。腫瘍マーカーも下がり、今のところ経過は順調のようです。

治療の過程で、病院の医師・看護師、家族、職場の人々に大変お世話になり、いくら感謝しても足りないくらいです。がんの原因は不明ですが、自分の健康は二の次という生活スタイルで、体からのメッセージを受け取れていなかったのかもしれない。会員の皆様もお仕事が忙しいと思いますが、少しでも体に異常を感じたら後回しにせず、検査することをお勧めします。



お見舞いに頂いた品